

別紙標準様式（第6条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回枚方市社会福祉審議会 子ども・子育て専門分科会	
開催日時	令和6年3月26日	開始時刻 10時00分 終了時刻 11時32分
開催場所	枚方市役所別館 第3・4委員会室	
出席者	委員：石田委員、出倉委員、北山委員、崎村委員、高瀬委員、茅田委員、田中委員、西村委員、松本委員、（臨時）飯田委員、（臨時）大西委員	
欠席者	安藤委員、及川委員、嶋田委員、田邊委員、富岡委員、高田委員	
案 件 名	【案件】 (1) (仮称)枚方市こども計画について ・こども計画の構成と概要について ・本市を取り巻く状況について ・こども・若者からの意見聴取について 【報告】 (1) 幼保小の架け橋プログラムについて	
提出された資料等の名称	資料1 計画の構成について 資料2 計画の概要について 資料3 本市を取り巻く状況 資料4 大阪府子どもの生活に関する実態調査の概要 資料5 こども・若者からの意見聴取について 参考資料1 こども計画策定に向けてのスケジュール 参考資料2 枚方市社会福祉審議会子ども・子育て専門分科会委員名簿	
決 定 事 項	・委員からの意見を踏まえ、「(仮称)枚方市こども計画」の策定に向け、取り組みを進めていくこととした。 ・本日の資料等について、追加で意見がある場合等は、4月5日（金）までに事務局まで連絡することとした。	
会議の公開、非公開別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	0人	
所管部署 (事務局)	枚方市役所 子ども未来部 子ども青少年政策課	

審 議 内 容	
石田副会長	皆さんおはようございます。本日は安藤会長が体調不良のため欠席ということで、私が会長の代理を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、ただいまから「令和５年度第２回枚方市社会福祉審議会子ども・子育て専門分科会」を開会いたします。 初めに、事務局から本日の委員出席状況について報告をお願いいたします。
事務局	皆様おはようございます。子ども青少年政策課長の小篠でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 本日の委員の出席状況でございますが、出席委員は１１人で定足数に達しており、本分科会が成立していることを御報告させていただきます。 なお、前回の分科会におきまして、こども計画については、子ども・子育て支援事業計画に加え、子ども・子育て、若者に関連する計画などを包含した計画となるため審議にあたりましては、当分科会以外からも御意見をいただくこととさせていただきました。 そこで、本日は枚方市子ども・若者育成計画について御審議いただいております、枚方市青少年問題協議会の会長で、大阪国際大学人間科学部講師の飯田香織委員と枚方市ひとり親家庭等自立促進計画について御審議いただいております、枚方市社会福祉審議会児童福祉専門分科会会長で、神戸女子大学文学部教授の大西雅裕委員に臨時委員として御出席いただいております。 なお本日の傍聴者はございません。
石田副会長	ありがとうございます。本日は、（仮称）枚方市こども計画などについて、皆様から御意見を伺ってまいりたいと考えております。 本日の会議は１１時半頃までを予定しておりますが、可能な限りスムーズに審議を進めていきたいと思っておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。 さて本日は伏見市長から、（仮称）枚方市こども計画の策定について諮問をお受けする予定となっていましたけれども、市長が他の公務のため、清水副市長が出席されていますので、御挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。
清水副市長	改めまして、皆さんおはようございます。副市長の清水でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。 副会長から冒頭、お話がありましたが、伏見市長が他の公務のため出席ができませんので、私が代わって御挨拶を申し上げたいと思います。 委員の皆様におかれましては、平素から市政運営に何かと御理解、御協力をいただいております、誠にありがとうございます。 この分科会におきましては、これまで待機児童の解消、あるいは子育てに関する相談支援、子どもの貧困対策など子ども・子育て支援について、様々な御議論をいただきました。また、現行の子ども・子育て支援事業計画の改定に当たっても熱心

	に御議論いただき、また計画の進捗状況についてもそれぞれ専門的な見地から、様々なアドバイスをいただいております。本当にありがとうございます。 現在、子どもを取り巻く状況というのは、厳しくなっているというふうに感じておりまして、例えば待機児童の問題や児童虐待、いじめ、不登校の件数の増加、様々な問題がございます。枚方市におきまして、例えば、いじめに関しては、いじめ防止対策推進法に基づく重大事案、これも結構な件数が出ておりまして、その都度、教育委員会でいろいろ調査をしているという状況でございます。不登校についても、3桁ぐらいずつ毎年増加をしているということで、今、枚方市全体では1,000人弱となっています。1,000人といえますと、1つの学校の全校生徒が不登校というような状況で、これが年々増加しているということで、このあたりの対策も今、喫緊の課題になっております。 今、市議会は3月定例会議会の開催中でございますが、この中で令和6年度の市政運営方針というのを、市長が表明しております。この中で、子育て・教育を、重点課題の、最重点課題の1つとして位置づけをしております。 この4月には、母子保健と児童福祉の機能をあわせもった、いわゆる国でいうところの「こども家庭センター」、大阪府の児童相談所が「子ども家庭センター」という名称なので、枚方市では「まるっとこどもセンター」という名称の組織を立ち上げます。「まるっと」というのは丸ごと子どもを支援するということです。今は、両組織の場所が保健センターと本庁に二分化されておりますので、組織としては4月に立ち上げますが、この9月からは駅の北東にある再開発ビルの6階に「まるっとこどもセンター」が入ることになっております。 このように、本市としても、子ども・子育てに関する施策の更なる充実を図るということで、これまで3つの審議会でも3本の計画をそれぞれ御議論いただいておりますが、この3つの計画を一本化させた「（仮称）枚方市こども計画」の策定について、本日、諮問をさせていただくことにしております。 委員の皆様におかれましては、引き続き、子ども・子育て支援施策の推進にお力添えを賜りますことをお願い申し上げまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。 本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
石田副会長	はい、ありがとうございます。それでは次第2の（仮称）枚方市こども計画の策定についての諮問につきまして、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	それでは、（仮称）枚方市こども計画の策定につきまして、枚方市社会福祉審議会に諮問をさせていただきます。 なお、諮問書を清水副市長から石田副会長にお渡しさせていただきます。 清水副市長よりよろしくお願いいたします。 〔諮問式〕 （諮問書の読み上げ、手渡し）
事務局	ありがとうございました。委員の皆様のお手元にも諮問書の写しをお配りします

	ので御参照願います。 なお、副市長におかれましては他の公務がございますので、ここで退席させていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。
石田副会長	それでは、案件の審議に入っていきたいと思いますが、まず事務局から資料の確認をお願いいたします。 [配付資料確認]
石田副会長	それでは、本日の議題に入ってまいります。 まず初めに、案件（１）「（仮称）枚方市こども計画について」のうち、こども計画の構成と概要について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料１～２について説明
石田副会長	はい、ありがとうございます。ただいま、案件（１）のうちこども計画の構成と概要について説明がありました。これまでの説明につきまして、御意見・御質問があれば伺いいたします。 私のほうから、まず２ページ目の各種計画の関連図というところで、国のこども大綱を勘案するとか、都道府県のこども計画を勘案するとか、整合を図っていくということが出てきますけれども、勘案するというのは、原案を出す段階で、事務局のほうである程度勘案して出していただいていくことになるのかということが１つ。 もう１つは、他の計画と整合性を図るに当たって、何か庁内の中で会議体とかを設けているのかどうかということについて、よろしくお願いします
事務局	こども大綱などを枚方市の実情を踏まえて勘案した案を事務局で作成し、皆様へお示ししていきたいと考えております。枚方市の子どもや子育てに関する計画につきましては、これまで子ども・子育て支援事業計画において、大きな施策もたくさん取り組みを設けさせていただいております。それも含めて、実情を踏まえて案のほうを策定してまいりたいと考えております。 また、他の計画との関連につきましても、先ほど説明をさせていただきました子ども・子育て支援事業計画推進委員会という、関連計画を担当する部署が参加している会議で議論しており、きちんと整合がとれているかというようなところも含めて、取りまとめて、案としてお示しさせていただきたいと考えております。
石田副会長	ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。
大西委員	失礼いたします。臨時委員として入って、今日初めてのところで、最初に声を出すというのはいかがなものかと思うんですけれども、あえて発言させていただきたいと思います。２点あるのですが、こども計画ということですから対象主体で

	ある子どもに周知するために、子どもにとって分かりやすい概要版というようなものを策定するのかどうかというのがまず1点。 それと、計画の概要の部分についてなんですけれども、非常に単純なことで本当に申し訳ないのですけれども、一文一段落になっているのですよね。要するに、段落という意味は、幾つかの文章が集まってひとつのことについて説明をするというような形が段落だと思うのですが、一文一段落になっているので、ちょっとこれでは文章ということでは、疑問に思います。 この2点について、お伺いしたいと思います。
石田副会長	事務局、お願いいたします。
事務局	ありがとうございます。子どもからの意見を聴取していくというところでございますので、子どもにわかるような概要版をお示しさせていただきたいと思っております。お示しする際には、これでは分かりにくいのではないかとか、こういう表現のほうが子どもにとってはいいのではないかとというような御意見もお伺いできたらと思っておりますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。 それから、文章についてですけれども、一文一段落というところにつきましては、読みやすさも含めて、工夫をして整えたいと思っております。またいろいろ御意見いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。
石田副会長	ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。次の案件に移って、もし何かお気づきの点があれば、次の意見交換のときに言っていただければと思いますので、とりあえず先に進ませていただきます。 それでは、2つ目の、本市を取り巻く状況について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料3～4について説明。
石田副会長	ありがとうございました。ただいま、事務局から本市を取り巻く状況について説明がありました。これまでの説明につきまして、御意見・御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。
高瀬委員	資料3に基づいて、3つ質問がございます。 まず、1点目ですが、総人口の推移についてお話ししたいのですが、枚方市の人口推移を見れば、緩やかに減っていているところなのなんですけれども、枚方市と規模が同じぐらいとなれば豊中市とか吹田市ということになってくると思います。吹田市の事例で見ますと、平成27年は37万4,000人、令和2年は38万4,000人で、平成27年から令和2年にかけて1万人増えています。 偶然、この資料を見る機会がありまして、非常に驚いたといいますか、日本全体がずっと人口減になっていくだろうという予測の中で、枚方市と規模が同じような自治体で、人口をすごく伸ばしているというところに何か秘密があるのかわからな

	いところなので、もし枚方市で、他市の動向を把握しているところがあったら、教えてください。 また、同じく資料3の3ページで、1つ目の質問に重なるところですけど、合計特殊出生率の推移について、枚方市は全国を下回っています。枚方市は大阪のベッドタウンというイメージがあり、この出生率が全国と同程度ということでしたら、そのイメージとだいぶ重なるのですが、それを下回っているという結果が個人的には意外というところがありまして、その点に関して何か、市のほうで把握していることがあったら教えていただきたいと思います。 2点目ですが、資料3の7ページです。ひとり親家庭の推移ですが、令和2年に全国よりも枚方市は占める割合が減っているので、何か具体的な施策で効果があったというものがあれば、教えていただきたいです。 3点目ですが、8ページの就労の状況についてです。女性の年齢別就業率の推移がM字型カーブから緩やかになったというところですが、やはり一番高いところから下がっているところの年齢が、25～29歳、30～34歳というところで、いわゆる子育て世帯のまだ子どもが割と小さい家庭のところが該当するのかなと想像しているのですが、女性の方が仕事を辞めてしまう原因はたくさんあると思うのですが、1つの理由の中に、保育園から小学校に移るときに、保育園は早い時間から預けられるけれども、小学校に入った瞬間、預けられず、やむを得ず仕事を辞めてしまうなんていうケースが考えられると思います。 実際、私の周りでもそういう具体的な事例を知ることがあり、把握しているところもありますが、この問題の解消として、他府県、他の市町村の事例でいいますと、早朝に小学校で預かるようなシステムをやっているところがあったと思います。そういう方向性のような事例が、枚方市でもあるのかということをお聞きしたいです。いたずらにそういう制度を次々に設けてしまうと、小学校の負担にもなると思いますので、簡単な話ではないことは十分把握していますが、他の市町村の事例もありますので、その点、もし枚方市で考えているところがあれば、お聞きしたいということです。
石田副会長	ありがとうございます。事務局、お願いいたします。
事務局	まず、吹田市の人口増ですけども、吹田市は住宅用地の再整備が進んでいて、それを背景に人口が伸びているというふうに言われています。ただ、将来的には人口が減少するということが見込まれているようです。 合計特殊出生率につきましては、全国より少し下回っているのですが、この要因がこちらのほうできちんと把握ができていない部分もありまして、担当課に確認させていただきます。 ひとり親世帯数の推移につきましては、枚方市は令和2年度に低い割合になりましたが、この要因はよくわからないところなのですが、婚姻数そのものが減っているというところもあるでしょうし、あと、婚姻しても子どもさんがいらっしやらない世帯があるというところで、そもそも母子世帯になり得る母数が減って

	いるのではないかなというように考えられます。はっきりした要因というのは、なかなかわからないところではあります。 他には、枚方市においても、小学校で早い時間帯に預かるようなシステムがあるのかというような御質問だったと思いますが、おっしゃっていただいたのは、小1の壁と言われているところかなと思っております。 放課後対策につきましては、枚方市もいろいろ取り組みを進めているところですが、朝の部分にどのように対応できるかというところは課題で、今後どういうふうにしていくかということも、課題になってくるかなと思っております。 おっしゃるようになかなか難しい点だということは事務局としても把握しております。現在のところ、朝につきましては、小学校2校で実施をさせていただいております。（後日訂正：留守家庭児童会室として預かりを実施している小学校は、現状ない。）それを踏まえて、どういったことができるのかということも見据えていきたいというふうに思っております。
石田副会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。 すみません、私のほうから。先ほどの合計特殊出生率の点ですけれども、これは大阪府全体で下がっているのか、あるいは、枚方市だけが下がっていて、この周辺の市町村は上がっているのか。先ほど言われたようにベッドタウンとしての役割というのは変わってきている可能性があるので、大阪府とだけ比べるというよりは、周辺の市町村と比べるといいのかなというふうに思いました。 あと吹田市の人口増加の点については、J Rの新駅が南のほうにできたのと、この間、北大阪急行が延伸され、江坂駅周辺にマンションが建っているので、来年度か再来年度にまた保育所を1つ増やさないといけないというようなことが言われていたかと思いますので、新しいマンションが建つと、一気に人口が増えるということはあるのかなと思いました。
石田副会長	そのほか、何か御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは、次に移っていきます。次は、こども・若者からの意見聴取についてということで、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料5について説明
石田副会長	はい、ありがとうございます。ただいまの事務局の説明に対しまして何か御意見、御質問等ございましたら、よろしく願いいたします。
西村委員	東香里小学校校長の西村です。子どもからの意見聴取については、今、実際児童・生徒の様子を見ていますと、思った以上に子どもは大人の話を知りたいと思っている部分もありますし、また非常に社会問題に対して、機会があれば意見を言いたいというところをすごく感じます。 本校は、比較的、社会問題やSDGsとかそういったことに対して積極的に考えさせていますので、それに対してやはり子どもたちは各テーマを選んで、たくさん

	の意見を言うておりますので、例えば事前準備で、意見の言いやすいテーマを設定というところですが、子どもたちにヒットする意見はやっぱり平和とか、やっぱり今のニュースでいうと環境問題、これから自分たちが生きていく環境についてはものすごく関心が高いです。あとジェンダーですね、ジェンダー平等、これについても子どもたちはすごく真剣に考えています。今、日本の世の中では、このジェンダー平等は本当に進んでないというのはすごく感じるので、これに対して子どもたちはすごく疑問とか、政府の方の発言とかに対しても、すごく批判的な視点を持っていますので、そういったテーマを設定いただけたら、子どもたちはすごく意見を言うのではないかなと思いますし、そうやって子どもたちの意見が政策とか、国のところに反映されるのであるならば、より一層すごい意欲を持って、子どもたちは意見を出してくると思いますので、これを進めていただけたらなと思います。
石田副会長	ありがとうございました。意見を踏まえて、事務局のほうで今後検討いただければと思います。
北山委員	ありがとうございます。くずはローズ幼稚園の北山と申します。 説明いただいた資料5のスケジュールの部分ですが、今、小学校の校長先生もおっしゃいましたが、事前準備を4月からして、9月から10月に意見聴取ということで、例えば、アンケートや意見聴取などを行って、子どもたちの意見を聴くという時に、アンケートをつくり込んでもうまいかなことが多いので、どこか一部の小・中学校や一部のクラスなどで、パイロット的に試していただいて、それを踏まえてもう少し練っていくというようなことを考えたりしていただけたらなというふうに思います。
事務局	ありがとうございます。このこども・若者からの意見聴取というところ、あくまでもまだイメージという段階で、これからいろんなやり方を考えていこうと思っていますので、今、先生がおっしゃっていただきました御意見なども踏まえまして、いろいろ考えていきたいと思っています。ありがとうございます。
石田副会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
崎村委員	こども・若者から意見を聴取する目的みたいなものは、少子化対策といいますか、どうやったら子どもが増えていくのかなというようなためのものなのかなと思っていたのですが、子どもから意見を聞くということは、まず子ども自身が生きやすい環境というか、そういうところがどういうところなのかなというところを目的に聴くというか、そういうことをテーマにするということなのか、イメージがだんだんわからなくなってきました。 例えば、発達障害とかギフテッドのような多様な子どもたちに対応されるとか、ひきこもりの方がどういうことを思われているかというようなことにも耳を傾けるということなのであれば、またそういったテーマも加えていかないといけないし、

	テーマをどういうものにするのかというところがすごく疑問に思いました。よろしくお願いします。
石田副会長	ありがとうございます。事務局のほうから何か回答があれば、お願いします。
事務局	ありがとうございます。まさしくテーマ、どういったところを聞くのかというところが、すごい難しくもあり、大変であり、重要なと思うのですけれども、今、想定しているのはこのこども計画を作っていくというところで、このこども計画について意見をいただきたいなというように考えていて、こども計画には、もちろん、こども・若者に関する施策というのがいろいろ掲載されていて、実際子どもたちがどういった居場所が必要だと思っているのかとか、どういった施策を望んでいるのかというところを聞いて、そこをうまく計画の中に反映できたらいいのかなと思っていますのですが、聞き方がすごく難しいと思っています。どういった形で聞いていこうというところが、まだ固まっていないところではあります。本当にテーマの設定、聞き方というのは難しい課題だと思っています。
石田副会長	ありがとうございます。
飯田委員	今回初めて参加させていただきました、青少年問題協議会のほうから参りました飯田と申します、よろしくお願いします。 私自身、今、大学の肩書しか書いていないですけれども、公認心理師、臨床心理士として、スクールカウンセラーも17年ほど経験していました。子どもにどういうことを聞いていくかということなんですけど、多分、どういうことを目的としたこども計画をつくっていくかということと同義なのかなと思いながら、伺っていました。心理学の中で、コミュニティ心理学というのがありますが、全ての人自己実現をして生きるというか、そういうことが目標になるかなということをイメージしながら伺っていて、全ての子どもが自己実現的に生きるということが目標になるかなと思っています。 コミュニティ心理学の考え方の中に、1次予防、2次予防、3次予防という考え方があります。1次予防というのは、健康な子どもをより健康にする支援で、2次予防というのは早期発見、早期支援というところで、3次予防というのが現在、課題を有している子どもへの支援という形なのですけれども、まず子どもを考えたときに、健康な子をより健康にしていくための方策も必要でしょうし、支援が必要な人を早期発見、早期支援していくための支援も必要でしょうし、こども大綱を見ても、現在課題を有している人への支援、悩みや不安を抱える若者や家族に対する相談みたいなのところもあるでしょうし、何かそういうことを方向性の軸として考え得るのかなと思ったので発言をさせていただきました。
石田副会長	ありがとうございます。事務局のほう、何かございますか。
事務局	ありがとうございます。確かに、健康な子ども・若者をより健康にする、課題の

石田副会長	ある子ども・若者を支援するとか、こども大綱には課題のある子ども・若者、健康な子ども・若者の両方について記載されていますので、おっしゃっていただいたような部分も踏まえながら、考えていきたいと思いますので、これからもいろいろと御意見いただければと思います。ありがとうございます。 その他にはいかがでしょうか。私からですが、このこどもの意見聴取というのは、今回、こども基本法の非常に重要な部分になっていて、他市でも、ここをどうしていくのかというのは非常に苦慮されているところだと思います。 この意見聴取には、２段階あると思っています。１つは、こども計画に限らず意見を聴き、どう保障していくのかということです。ただ、大きなところまで議論したほうがいいのかもしれませんが、今回ここで議論しているのはそこまで大きいことではなく、まずは、このこども計画についての素案とかについて、どう意見を聴くかということだと思いますので、そのあたりを整理して考えていくほうがいいのかなと思います。あまり大きいところまで意見を聴くとなると、この計画にどう反映させていくのかという話にもなってきますし、ここだけ考えて他の施策に対しては何も意見を聴かないのかということになると、そうではないはずなので、ここはここ、それから大きく、そのあたりはどこで議論するのかわからないですけど、枚方市の中でも議論を共有していただければというふうにしています。 今回は計画策定についての意見聴取ですけれども、計画の策定後も計画の進捗等、評価をする時の意見聴取もありますので、そういうところも含めて、今後考えていかないといけない課題だなと思います。 ちなみに、先ほど事務局の言っていたガイドラインについては、バインダーの最後の方に、分厚いのが綴じられています。インターネットでも拾える資料だと思いますので、また確認いただければと思います。 その他はいかがでしょう。 はい、それではこども計画の３案件について、皆さんに御意見をいただきました。事務局におかれましては委員の皆さんからの意見を踏まえて、「（仮称）枚方市こども計画」の策定に向けて、取組を進めていただければと思いますのでよろしく願いいたします。 それでは、次の案件の報告のほうに移ります。報告（１）の幼保小の架け橋プログラムについて、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料６について説明。
石田副会長	ありがとうございました。ただいま説明いただきましたけれども、この件に関しまして何か御意見、御質問等はございますでしょうか。
高瀬委員	幼保小の架け橋プログラムのイメージからは恐らく外れていると思いますが、意見する場がないので、ここで話ししておきます。幼稚園・保育園と小学校の接続という点をかなり意識されていると思うのですが、子どもの生活の中心から考えますと、幼稚園・保育園から小学校に移る際に留守家庭児童会という存在があると思

	います。お子さんによっては、そこで過ごす時間も長いですし、ちょうど3月から4月に移り変わる時期でいいですよと、実は留守家庭児童会に先に行ってから、本格的に小学校を体験するというお子さんが多い中で、保育園と小学校の先生方というのは綿密な引き継ぎみたいなのをされていると思いますが、大人からすれば小学校という組織と留守家庭児童会は別物だと思っていても、子どもからすれば、小学校という大きなくりの中の活動、児童会に行かれていない方もいるので全員には当てはまらないと思うのですが、1日の大きな生活を担っている要素になるお子さんもたくさんいらっしゃると思います。そういった中で、例えば小学校であれば保育園とか幼稚園の年長さんの頃に、体験プログラムみたいなものがあると思うのですが、児童会に入る前にもこういうところだよというようなプログラムがあるのかということ、そして、現実問題として、保護者という立場で言いましたら、小学校に頻繁に電話して、「うちの子、どんな様子ですか」と伺う保護者もおられるかもしれませんが、留守家庭児童会であれば、時間が遅くなり、お迎えに行ったときに、子どもの様子を、小学校でどうしているかということ以上に聞く機会があって、貴重な情報源でもあります。子どもの目線ということと言っても、幼稚園・保育園から小学校の接続というところで、重要な要素を担っていると思うので、その引き継ぎとか連携という部分に関して、教えていただきたいですし、そういうものがないということでしたら枚方市ではどう考えているかということをお聞きしたいです。
石田副会長	ありがとうございます。今の視点というのは、今日欠席されていますが、安藤会長も常々、学童のことを言われていたと思います。事務局、そのあたりいかがでしょうか。
事務局	御意見ありがとうございます。留守家庭児童会の様子であるとか、そのあたりについては断片的にしか把握できていないところはあるのですが、今回、この架け橋プログラムというところで申し上げますと、5歳児と小学校1年生の架け橋期におけるつながりということを大切にして、協力して取り組んでいるところなんです。そういった取組が小学校の子どもたちが留守家庭児童会に行くということにもつながってくるのかなというふうにも考えながら、今、取り組んでいるところです。 今、おっしゃっていただきました留守家庭児童会のほうでの生活の様子であるとか、そこにどのように関わっていくのかというようなことも含めて、そういう視点も持ちながら、この架け橋プログラムにつきましては取り組んでいきたいと思います。 また、留守家庭児童会の部署に、今いただいた御意見を共有させていただくとともに、小学校、留守家庭児童会にも共有させてもらいたいと思います。ありがとうございます。
北山委員	すみません、留守家庭児童会の担当部署というのは、枚方市役所のどのあたりにあるのでしょうか。

事務局	教育委員会、きららの4階に放課後こども課という留守家庭児童会の担当課があります。
北山委員	きららというのは、どこにあるのでしょうか。
事務局	車塚1丁目にありまして、中央図書館の向かいの建物の3階、4階が教育委員会の事務局のスペースになっています。その4階に放課後こども課があります。
北山委員	架け橋プログラムは公立保育幼稚園課が担当されていて、大阪府下の市町村で小学校関係の担当部署と幼稚園・保育園の担当部署が別の建物にあるというのはあまりないのですね。どうなっているか、断片的にしかわからないとおっしゃっていたのですが、できれば同じフロアの隣とか、せめて上と下の階にはあるべきかなというように昔から思っています。だいぶ離れたところにあるということで、それはどうなのかなというふうに思っていますという意見です。
事務局	ありがとうございます。架け橋プログラムに関しましては、確かに教育委員会の教育指導課と公立保育幼稚園課と離れたところにあるのですが、常に会議などを持ちまして、今回も教育指導課の主幹が来て説明をさせていただいていますように、連携をきちんととりながら、また就学前、公立・私立、全ての施設と連携しながら取り組んでいるところです。今後もいろいろと御協力よろしくお願いいたします。
石田副会長	はい、ありがとうございます。
西村委員	すみません、東香里小学校の校長の西村です。 今年1年間、ここに書いてあるスタートカリキュラムを作り上げて、来年度から、より連携が密になるかなというふうに思っていますし、実際、取り組んだ中で本当に子どもたちが、園児も安心感を持てた取組だったと思っていますし、回数は施設が離れているから少ないのですが、例えば本校では6年生が香里幼稚園に出向いて交流事業をやっています。そして、来年度来るその地域の香里幼稚園、香里ヶ丘保育園などの園児があわせて70名来ましたかね、本校の1年生と交流会を持つということをやりました。 少しでもつながりが今後増していくのかなというのと、大事な部分は、実際、本当に入ってきた1年生が安心感を持って過ごせるかという部分なので、それを来年度はやっていきたいなというふうに思っておりますが、ただ、すごくよかったのは、この交流会を通して1年生が体験授業として先生になって、園児が生徒、児童になってもらいました。実際、授業を体験してもらったことで、ものすごく子どもたちにも伝わったし、むしろ伝えた1年生のほうがものすごく自信になりました。次に2年生になって、新しく入ってくる1年生をしっかり見守っていききたいと、笑顔にしたいというふうにすごい決意をしていたので、この架け橋プログラムがすご

石田副会長	くいい効果を出しているなというのは感じています。 以上ですが、報告させていただきました。
田中委員	はい、ありがとうございました。 小学校からの報告もありましたので、保育園のほうからも報告させていただけたらというふうに思っています。 このカリキュラムが始まる前は、小学校との交流というと、年1回、小学校見学に行かせてもらうぐらいだったのですけれども、うちは明倫小学校とのグループなのですけれども、今年度3回ぐらい行かせていただいて、小学校1年生のお部屋に実際入らせてもらって、校長先生が先生役をして、ちょっとした授業風景みたいな形でお話を進めていってくださいました。あと作品展とか絵画展とかそういうのにも参加させていただいて、何よりもやっぱり子どもたちが小学校へのすごい期待感が膨らんだなというふうに思っております。また、そういった様子を保護者に写真で発信することで、保護者の皆さんもずいぶん安心されたのではないかなというふうに思っています。 すごく良かったなと思うことと、それから課題というほどではないのですけれども、こちらから行く機会は非常に増えて良かったなと思うのですけれども、小学校からこちらに見に来ていただくという機会がないので、子どもたちが園でふだん生活している様子を見ていただけたらなというふうには思っております。
石田副会長	はい、ありがとうございました。では、大西委員お願いします。
大西委員	失礼いたします。私は今回、児童福祉専門分科会から出席しているのですが、留守家庭児童会のお話が出てきたので、一言申し上げます。 実は、小学校の放課後対策の審議会委員長をやっておりますして、留守家庭児童会とか、放課後遊び教室ですね、それから生き生き広場とかいろんなものがあると思うのですけれども、それを総合型として、児童の放課後を豊かにする基本計画というものを立案させていただいています。 それに基づいて実行しているのですけれども、この幼保小の架け橋プログラムですね、もっと教育委員会でも、いろいろ参考にしながら、組み立てていくことができれば、もう少し子どもたちの放課後が豊かになってくるかなというようなことを思いながら、お聞きさせていただきました。 架け橋プログラムについて、いろいろと教えていただきたいですし、また意見交換なんかもさせていただければというように思いますので、今後ともどうかよろしくお願いお願い致します。 それを言っておかないといけないなと思いましたものですから、発言させていただきました。
石田副会長	はい、ありがとうございます。また来年度も、プログラムを進めていかれるということですので、今の意見とかも踏まえながら進めていただければというふ

事務局	うに思います。 すみません、少しお時間も押してきておりますので、議論はここまでにさせていただきまして、最後、その他について、事務局のほうから何かございましたら、よろしく願いいたします。 事務局から、その他として連絡事項をお伝えさせていただきます。 本日の案件につきまして、追加で御意見をいただきます場合は、また御不明な点がございましたら、恐れ入りますが4月5日金曜日までにお電話、FAX、メール等によりまして、事務局の子ども青少年政策課に御連絡いただきますようお願いいたします。 また、本日配付いたしました資料につきましては、引き続きの御審議に御利用いただくため、机の上にそのままにしておいていただけましたら、引き続きバインダーに保管をさせていただき、次の会議のときに机の上に、本日同様、置かせていただきます。また、資料を持ち帰られる場合は、封筒を御用意しておりますので、事務局までお申し付けください。 本日の会議録につきましては、事務局で案を作成の上、委員の皆様へ御確認いただき、その結果を会長と調整させていただき決定させていただいたものをホームページで公表してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。 なお、次回の審議会の日程は、6月頃を予定させていただいております。日程につきましては、改めて御連絡させていただきます。 事務局からは以上でございます。
石田副会長	ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたけれども、今日は時間の関係上、なかなか全ての意見を言えなかったという委員もいらっしゃるかと思いますし、またゆっくりと考えたら、こういうこともあったなというふうな意見もあるかと思います。 今、事務局からあったように、4月5日の金曜日までに何かございましたら事務局のほうにということですので、よろしく願いいたします。 それでは、これもちまして令和5年度第2回枚方市社会福祉審議会子ども・子育て支援専門分科会を終了します。 どうも皆さん、御協力ありがとうございました。